



ダメ! 高齢者虐待

高齢者虐待への 対応事例紹介

民生委員から「高齢者（Aさん）宅を訪問した際、娘さんがAさんの頭を軽く叩いているのを見た」との相談が地域包括支援センターに入りました。

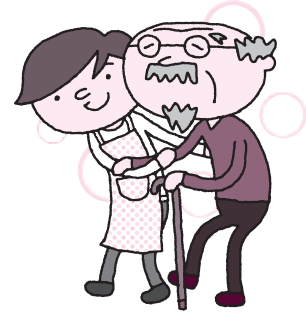
地域包括支援センターは、その状況などを確認するため、Aさんを支援している関係者（ケアマネジャー、デイサービス職員、民生委員）から情報収集し、対応を検討しました。

Aさんに関しては、『認知症のため物忘れがひどいこと。難聴で人の話をうまく聴きとれないこと』が分かりました。

また、娘さんに関しては、『介護によるストレスが極限状態にある』と推測しました。

そこで、次のとおり支援計画を立て対応しました。

- ① 介護負担の軽減のため、デイサービスの利用に加え、ショートステイの利用を提案する。
- ② 難聴のため筆談で意思の疎通を試みる（提案する）。



③ 娘さんに認知症を正しく理解してもらおう。

④ デイサービス利用時（入浴時）に不自然なアザなどがないか確認する。

⑤ 不自然なアザなどを確認した時は娘さんに声掛けをする。以上の支援を行ったところ、虐待はなくなりました。

虐待への対応は、養護者と高齢者双方のことを考えます。

『何かおかしい』

『どうしたらいいんだろう』

そう思ったら、お気軽に相談窓口ご連絡してください。

▼ 高齢者虐待に関する相談窓口

- 高齢・介護グループ（☎855720）
- または地域包括支援センターあおい（☎830511）
- ゆのか（☎882106）
- 「けいあい」（☎825005）

人が輝き まちがときめく

仲間たち

Group

登別子ども劇場

『子ども劇場』は、文化芸術や遊びの体験を通じ子どもと大人がともに育ち合える地域をつくってこうと昭和41年に福岡で誕生。その後全国へと広がり、『登別子ども劇場』は平成3年に結成されました。

現在、会員は124人。市内4つのブロックに分かれ、さらに小サークルごとの活動を基本とし、主な活動は全体で行う年3回の舞台鑑賞例会やお泊り会、雪あそびなどに季節の行事を行っています。

「今は、大人も子どもも忙しくなり、一緒に過ごす時間がどんどん少なくなっています。同世代の限られた友達だけでは、子どもは成長しません。もっと、異年齢で遊び、たくさん仲間と触れ合う

大人も子どもも育ち合えるように、人とのかわりを地域でつくっていききたい



▲平成20年に行われた地域公演の様子

ことが大切だと思います」と話すのは、運営委員長の上埜圭子さん。

「また、舞台鑑賞例会では、舞台上で繰り上げられる世界を通し、一緒に喜びや驚き、悲しみを経験し、豊かな心を育てています。5月22日(土)と23日(日)に一般の方も鑑賞できる地域公演を予定しています。ぜひ一度お越しください」

と上埜さんは呼び掛けていました。5年前に入会した米倉純子さんは、「わたしも子どものころに室蘭の子ども劇場に入っていて、娘にもそのすばらしさを知ってもらいたいと思いい入会しました。娘はもちろん、わたしもお母さん方との交流の輪が広がり、親子で楽しんでいきます」と話してくれました。

入会を希望される方は、子ども劇場事務局（☎825111、月・火・金曜日の10時～13時）